

本誌仮創 賀寿期五歳層十五人会議

◎「賀寿期五歳層十五人会議」構想について。

史上初といわれ、国際的に先行しているといわれる「日本高齢社会」。

それなのに、新世紀を迎えてこの10年余、わが国の高齢者に史上初の高齢社会で暮らしているという体感や充実感はない。高齢期の暮らしに何か欠けているという欠落感だけは確かにある。高齢社会の初代の高齢者として、歴史的に求められている何か新たな役割を果たせていない。果たしていればそれなりの内側での充実感や外側での存在感があるはずだから。

「生まれ育まれる世代＝青少年」「生み育む世代＝中年」「生をいとおしむ世代＝高年」の3段階目の人間存在として、3世代多重型社会の表現としての「成熟したしくみ」の成立に延滞が生じているように思える。

また国際的にも任務を果たしていない。1999年の「国際高齢者年」に、国連は、長寿として得た高齢期を「すべての世代のために (for all ages)」活かすよう要請し、「高齢者五原則」を指針として示した。

自立・・・independence

参加・・・participation

ケア・・・care

自己実現・・・self-fulfilment

尊厳・・・dignity

日本の高齢者の多くは、これを知ってはいても、この原則を体現して暮らしてはいないから、国際的にも期待に答えているとはいえない。

どうすればいいのか。そのことを話し合う場を設けることからはじめよう。

大きさは円卓会議15人とする。1+2+3+4+5、ラグビーのフィフティーンもある。メンバーは、同世代ということで、本稿が提唱している「賀寿期5歳層」とする。

率直に相応に日本高齢者の存在を明解に示すための「賀寿期五歳層十五人会議」をまずは実施にこぎつきたい。

賀寿期五歳層のステージ 2013年では、

百寿期 (100歳以上)	大正2年以前
白寿期 (95歳～99歳)	大正7年～大正3年
卒寿期 (90歳～94歳)	大正12年～大正8年
米寿期 (85歳～89歳)	昭和3年～大正13年
傘寿期 (80歳～84歳)	昭和8年～昭和4年
喜寿期 (75歳～79歳)	昭和13年～昭和9年
古希期 (70歳～74歳)	昭和18年～昭和14年
還暦期 (60歳～69歳)	昭和28年～昭和19年

同世代の政治家、官僚、学者、ジャーナリスト、経済人、芸術・芸能家、・・・が、まずは集って議論することからすべては始まる。[長命期] (90歳～) はひとまず後にいたします。

◎主催者は責任を持って遂行しうるところならどこでもいいのですが、本稿としては、「ライフ・イノベーション」を掲げて政権につきながら、「高齢世代」に呼びかけなかった「民主党」が、その欠落を埋めて「人」による変革を成し遂げる責任があるとみている。藤井裕久氏にお会いした機会でもあり、民主党が再建の意見聴取を行っている機会でもあるので、提案としたい。

[米寿期十五人会議]

(85歳～89歳) 大正13年～昭和3年

以下のみなさまの中から15人を選んで円卓会議をおこなう。

1924年(大正13)年

河合雅雄(1・2 霊長類学) 京極純一(1・16 政治学) 久米明(2・8 俳優) 陳舜臣(2・18 作家) 村山富市(3・3 政治家) 鈴木登紀子(11・14 料理研究家)

1925年(大正14)年

清水司(1・22 工学・早大総長) 豊田章一郎(2・27 経営者) 江崎玲於奈(3・12 物理学) 梅原猛(3・20 哲学者) 永井路子(3・31 作家) 森本哲郎(10・13 評論家) 野中広務(10・20 政治家)

1926年(昭和元)年

森英恵(1・8 ファッション) 三浦朱門(1・12 作家) 安野光雅(3・20 画家) 石井ふく子(9・1 プロデューサー) 小柴昌俊(9・19 物理学者) 大塚初重(11・22 考古学)

1927年(昭和2)年

宮城まり子(3・21 ねむの木学園) 堤清二(3・30 企業経営・作家) 無着成恭(3・31 教育評論) 伊東光晴(9・11 経済学) 坂本義和(9・16 国際政治学) 緒方貞子(9・16 国際関係)

1928年(昭和3)年

暉峻淑子(2・5 生活経済) 兼高かおる(2・28 旅行作家) 小島功(3・3 漫画家) 西原春夫(3・13 法学者) 三浦文夫(社会保障・社会福祉) 羽仁進(10・10 評論家) 土井たか子(11・30 政治家)

[傘寿期十五人会議]

(80歳～84歳) 昭和8年～昭和4年

以下のみなさまの中から15人を選んで円卓会議をおこなう。

1929年(昭和4)年

田沼武能 (2・18 写真家) 西川杏太郎 (3・9 日本美術史) 加賀乙彦 (4・22 小説家) 高橋治 (5・23 小説家) 磯村尚徳 (8・9 ジャーナリスト) 松下圭一 (8・19 政治学)

1930 (昭和5) 年

野村万蔵 (1・10 狂言師) 不破哲三 (1・26 政治家) 粕谷一希 (2・4 編集者) 阿部進 (6・11 教育評論) 芦田淳 (8・21 服飾デザイン) 有馬朗人 (9・13 原子核物理) 佐々淳行 (12・11 安全保障) 小田島雄志 (12・18 演劇評論)

1931 (昭和6) 年

牛尾治朗 (2・12 企業経営) 大岡信 (2・16 詩人・評論) 白石かずこ (2・27 詩人) 篠田正浩 (3・9 映画監督) 福原義春 (3・14 企業メセナ) 鹿野政直 (8・20 歴史学) 山田洋次 (9・13 映画監督) 曾野綾子 (9・17 作家) 谷川俊太郎 (12・15 詩人)

1932 (昭和7) 年

高階秀爾 (2・5 美術評論) 樋口恵子 (5・4 評論家) 藤井裕久 (6・24 政治家) 内橋克人 (7・2 評論家) 堂本暁子 (7・31 知事) 岸恵子 (8・11 俳優) 石原慎太郎 (9・30 作家) 五木寛之 (9・30 作家) 仲代達矢 (12・13 俳優)

1933 (昭和8) 年

森村誠一 (1・2 作家) 岡田茉莉子 (1・11 俳優) 渡辺貞夫 (2・1 音楽家) 永六輔 (4・10 放送タレント) 天野祐吉 (4・27 コラムニスト) 扇千景 (5・10 政治家) 池坊専永 (7・21 華道家元) 黒柳徹子 (8・9 俳優) 渡辺淳一 (10・24 作家)

[喜寿期十五人会議]

(75歳～79歳) 昭和13年～昭和9年

以下のみなさまの中から15人を選んで円卓会議をおこなう。

1934 (昭和9) 年

山口定 (1・2 政治学) 坂口力 (4・1 政治家) 堀田力 (4・12 弁護士) 田原総一郎 (4・15 評論家) 大内順子 (5・4 服飾評論) 山田太一 (6・6 脚本家) 米倉斉加年 (7・10 俳優) 筒井康隆 (9・24 作家)

1935 (昭和10) 年

倉本聡 (1・1 脚本家) 柴田翔 (1・19 ドイツ文学) 大江健三郎 (1・31 作家) 野村克也 (6・29 プロ野球) 堺屋太一 (7・13 経済評論家) 根岸英一 (7・14 化学者) 羽田孜 (8・24 政治家) 小沢征爾 (9・1 指揮者) 蜷川幸雄 (10・15 演出家)

1936 (昭和11) 年

中村桂子 (1・1 生命科学) 市原悦子 (1・24 女優) 長嶋茂雄 (2・20 プロ野球) 蓮見重彦 (4・29 仏文) 横尾忠則 (6・27 画家) 桑原史成 (10・7 報道写真) 加瀬英明 (12・22 評論家)

1937 (昭和12) 年

河野洋平 (1・15 政治家) 山藤章二 (2・20 イラスト) 加山雄三 (4・11 俳優) 小沢遼子 (5・4 評論家) 浅井慎平 (7・1 写真家) 森喜朗 (7・14 政治家) 見田宗介 (8・24 社会学) 養老孟司 (11・11 医学) 出井伸之 (11・22 企業経営)

1938 (昭和13) 年

伊吹文明 (1・9 政治家) 大林宣彦 (1・9 映画監督) 細川護熙 (1・14 政治家) 木村太郎 (2・12 ジャーナリスト) 与謝野馨 (8・22 政治家) 野依良治 (9・3 化学者) 堀江謙一 (9・8 冒険家) 佐々木幸綱 (10・8 歌人)

[古希期十五人会議]

(70歳～74歳) 昭和18年～昭和14年

以下のみなさまの中から15人を選んで円卓会議をおこなう。

1939 (昭和14) 年

湯川れい子 (1・22 音楽評論) 丹羽宇一郎 (1・29 経営者・大使) 加藤紘一 (6・17 政治家) 鈴木忠志 (6・20 演出家) 利根川進 (9・5 遺伝学) 森本毅郎 (9・18 キャスター) 田部井淳子 (9・22 登山家) 市川猿之助 (12・9 歌舞伎俳優)

1940 (昭和15) 年

加藤一二三 (1・1 将棋) 唐十郎 (2・11 劇作家) 鳥越俊太郎 (3・13 ジャーナリスト) 村田幸子 (5・14 アナウンサー) 王貞治 (5・20 プロ野球) 石弘之 (5・28 環境問題) 立花隆 (5・28 評論) 篠山紀信 (12・3 写真家)

1941年 (昭和16) 年

岩下志麻 (1・3 俳優) 横路孝弘 (1・3 政治家) 大宅映子 (2・23 ジャーナリスト) 小林克也 (3・27 DJ) 石坂浩二 (6・20 俳優) 安藤忠雄 (9・13 建築) 坂田栄一郎 (11・16 写真家)

1942 (昭和17) 年

小泉純一郎 (1・8 政治家) 今井通子 (2・1 登山家) 小沢一郎 (5・24) 三枝成彰 (7・8 作曲) 佐々木毅 (7・15 政治学) 青木功 (8・31 プロゴルフ) 尾上菊五郎 (10・2 歌舞伎俳優) 日野皓正 (10・25 ジャズ奏者)

1943 (昭和18) 年

アントニオ猪木 (2・20 プロレス) 大前研一 (2・21 政策研究) 北大路欣也 (2・23 俳優) 福島泰樹 (3・25 歌人) 深井晃子 (9・10 服飾文化) 丸山健二 (12・23 作家) 加藤登紀子 (12・27 歌手)

[還暦期三十人会議]

(60歳～69歳) 昭和28年～昭和19年

以下のみなさまの中から15人を選んで円卓会議をおこなう。

1944 (昭和19) 年

田中真紀子 (1・14 政治家) 小椋佳 (1・18 作詞・作曲) 山本寛斉 (2・8 服飾デザイン) 藤原新也 (3・4 写真家・作家) 椎名誠 (6・14 作家) 久米宏 (7・14 キャスター) 町村信孝 (10・17 政治家) 船橋洋一 (12・15 ジャーナリスト)

1945 (昭和20) 年

落合恵子 (1・15 作家) 佐高信 (1・19 経済評論) 宮城谷昌光 (2・4 作家) 谷垣禎一 (3・7 政治家) 吉永小百合 (3・13 女優) 宮本信子 (3・27 俳優) 鹿内春雄 (5・15 経営者) 福岡政行 (9・9 比較政治) 櫻井よしこ (10・26 評論家)

1946 (昭和21) 年

仙谷由人 (1・15 政治家) 新井満 (5・7 作家) 美川憲一 (5・15 歌手) 新藤宗幸 (6・25 政治学) 柏木博 (7・6 デザイン) 坂東真理子 (8・17 官僚) 安西祐一郎 (8・29 慶応大学塾長) 菅直人 (10・10 政治家) 藤森照信 (11・21 建築史)

1947 (昭和22) 年

石川好 (1・5 評論家) 橋本大二郎 (1・12 政治家) ビートたけし (1・18 TVタレント) 鳩山由起夫 (2・11 政治家) 荒俣宏 (7・12 作家) 北方謙三 (10・26 作家) 西田敏行 (11・4 俳優・演出) 池田理代子 (12・18 漫画家)

1948 (昭和23) 年

高橋三千綱 (1・5 作家) 毛利衛 (1・29 宇宙飛行士) 島森路子 (1・17 広告批評) 赤松広隆 (5・3 政治家) 上野千鶴子 (7・12 女性学) 井上陽水 (8・30 歌手・作曲) 鳩山邦夫 (9・13 政治家) 糸井重里 (11・10 コピーライター)

1949 (昭和24) 年

村上春樹 (1・12 作家) 海江田万里 (2・26 政治家) 高橋真梨子 (3・6 歌手) 武田鉄矢 (4・11 歌手・俳優) 矢沢栄吉 (9・14 歌手) 森田 健作 (12・16 政治家) テリー伊藤 (12・27 演出家)

1950 (昭和25) 年

残間里江子 (3・21 プロデューサー) 森田正光 (4・3 気象予報士) 坂東玉三郎 (4・25 俳優) 池上彰 (8・9 ジャーナリスト) 姜尚中 (8・12 政治学者) 塩崎恭久 (11・7 政治家) 岩合光昭 (11・27 写真家)

1951 (昭和26) 年

高橋源一郎 (1・1 作家) 竹中平蔵 (3・3 経済学者) 桃井かおり (4・8 女優) 坂村健 (7・25 工学者) 片山善博 (7・29 政治家) 増田寛也 (12・20 政治家) 笑福亭鶴瓶 (12・23 落語家)

1952 (昭和27) 年

坂本龍一 (1・17 作曲家) 村上龍 (0・19 作家) 稲増龍夫 (4・9 社会学者) さだまさし (4・10 歌手) 猪口邦子 (5・3 国際政治学) 向井千秋 (5・6 宇宙飛行士) 金子勝 (6・25 経済学者) 山口那津男 (7・12 政治家) 小池百合子 (7・15 政治家)

1953 (昭和28) 年

喜多郎 (2・4 ミュージシャン) 原口和久 (2・7 政治家) 北の湖敏満 (5・16 大相撲) 竹下景子 (9・15 女優) 阿川佐和子 (11・1 エッセイスト) 島田裕巳 (11・8 宗教学者) 落合博満 (12・9 プロ野球)